

校訓	自分を育て 自分を生き 社会を明るく	令和3年度学校だより 「天の子」 第6号	発行日	令和3年6月28日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、行動する力、豊かな心を育む～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 前田 徳三

【熱中症対策】

梅雨の合間に日差しが強くなり、真夏日になる日があります。暑さへの警戒が必要な季節となりました。そのため、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、熱中症対策も同時に重要になります。

先日、尼崎市の高校で体育の授業で9名の生徒が病院に搬送された事案等、より一層、熱中症対策を強化しなければなりません。

本市におきましては、体育の授業において、「原則、マスクを着用させないこと。但し、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、原則、マスクを着用させること。」ただ、「感染が不安でマスクの着用を希望する児童生徒がいる場合は、認めること。但し、呼吸が激しくなる運動は見学させ、学習課題を用意する等の配慮を行うこと。」と定められています。

コロナ禍が続き、十分な部活動が行えない状態が続いたり、外出したりする機会が極端に減り、体内の水分を蓄える筋力が低下していることが原因の一つであると指摘されています。また、例年よりも梅雨入りが早かった今年は、厳しい暑さの日や比較的涼しい日があり、身体が熱さに順応できていないことも考えられます。

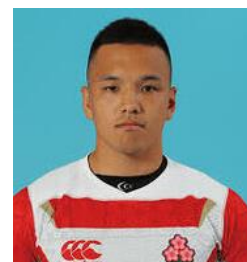
先日、「熱中症対策における水分補給について」（令和3年6月17日付文書）にてお知らせしましたように、今年度から、水分補給において水やお茶だけよりも身体への吸収によいと言われている「スポーツドリンク」を9月28日（火）までの間、持参することを許可しています。マスクの着用のため身体に熱がこもりやすく、また、口の中が湿って喉の渇きを感じなくなります。そのため、こまめな水分補給の習慣化をお願いします。

一方、昨年の熱中症の発生場所において、住居が4割超もありましたので、家庭におきましても熱中症対策については、十分ご注意ください。



【梶村祐介選手、五郎丸歩（ごろうまる あゆむ）選手】

先日行われました第58回日本ラグビーフットボール選手権大会兼 トップリーグ2021において、本校出身の梶村祐介選手が決勝戦に出場しました。決勝戦でパナソニックには敗れたものの活躍していました。テレビ放映され、多くの職員で応援しました。



本校の卒業生は多方面で活躍しています。とてもうれしいことです。＜梶村祐介選手＞

また、五郎丸歩選手（ヤマハ発動機）は、本大会をもって、現役を引退されました。五郎丸選手は、2015年イングランドで行われたワールドカップにおいて、世界一に輝いていた南アフリカ戦で24点をマークし、「ブライトンの奇跡」と呼ばれる歴史的な勝利の中心選手として貢献され、歴史に名を残しました。

五郎丸選手の引退会見で記者に「なぜ、ここまでラグビーを続けることができたのか」と質問されたとき、「人との出会いがあったから」と応えられました。また、一番影響を受けた人物は誰ですか」と続いて質問されたとき、家族や小学校、中学校、高校、大学の先生、日本代表監督と何人もの顔が頭によぎられたようでしたが一番は選ばれませんでした。そして、「必要なタイミングで必要な方と出会えた」と応え、人生とは「人と生きること」だと言われたことがとても印象的でした。今は、コロナ禍で人と会うことが制限される状況ですが、人と直接会ってふれあうことの大切さを改めて感じました。



＜五郎丸歩選手＞

【子供・若者白書】

内閣府の2021年版「子供・若者白書」によると、家庭や学校、インターネット空間等で「ほっとできる居場所」が多い若者ほど、自分が好きだと感じやすいとの分析結果を公表されました。新型コロナウイルス禍に伴う孤独・孤立が深刻な中、「心の居場所」の重要性が示されました。



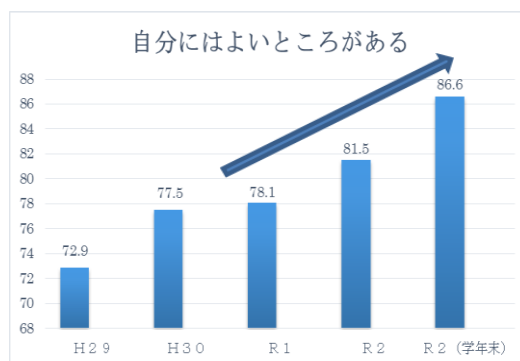
調査によると、「自分の部屋」「家庭」「学校」「地域」「職場」「インターネット空間」の6項目のうち、居場所が全くない「0」であった若者で「今の自分が好きだ」と回答した若者は10.3%、半分の「3つ」では38.3%、すべて該当する「6つ」では72.0%と、居場所の数が増えるほど、「今の自分が好きだ」と回答していました。

また、「今の自分が好きだ」という、いわゆる自己肯定感が高い子どもは、①物事に自信を持って取り組める。②積極的にチャレンジする力がある。③幸福感がある。④人に優しくできる等の力を持つことができます。子どもにとって、自尊感情の醸成はとても大切なことです。

本校においては、わかる授業づくりによるきめ細やかな教科指導や感動のある行事等の体験活動等のすべての教育活動を通して、子ども達の自尊感情の醸成を図り、日ごろから、学校、学級が子ども達にとって「心の居場所」となり、自分が大切な存在、認められる存在であると感じられる手立てを講じるよう努めています。

全国学力・学習状況調査の経年比較から、「自分によいところがある」と回答した生徒がR2年度81.5%（昨年度78.1%）と向上し、学年末に調査した生活アンケートでは86.6%と更に向上が見られ、とてもうれしいことです。

各家庭におかれましても、子どもの自尊感情を醸成するために、あれもダメ、これもダメと否定する言葉ばかり言うことは論外として、「頑張ったね」と褒めることは勿論として、いろいろな場において、「ありがとう」と言ってあげることが一番有効な言葉だと思います。子どもたちの自尊感情の醸成に努めていきましょう。



天王寺川中学校の取組や子どもたちの様子をホームページに載せています。是非、ご覧ください。

https://www.itami.ed.jp/school/Jrhigh/jr_tenn/index.html

※右のQRコードをお読みいただき、天王寺川中学校のホームページをご覧ください。

学校の様子をクリックしていただくと、最新の情報をご覧ください。

